

経済経営数学I 補助資料

～線形代数の復習1～

(行列の書き方, 逆行列, ランク)

2023年度1学期: 水曜1限
担当教員: 石垣 司

1

本授業でのベクトルと行列の表記法

スカラー(ベクトルや行列ではない実数)

- 小文字で表記: a, b, c 等

ベクトル

- 小文字の太字で表記: $\mathbf{a} = [a_1 \ \cdots \ a_M]^T$ (M :次元)
ベクトルは縦に長い

行列(Matrix)

- 大文字で表記: $A = \begin{bmatrix} a_{11} & \cdots & a_{1P} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{M1} & \cdots & a_{MP} \end{bmatrix}$ ($M \times P$ 行列)
各 a_{ij} は行列の成分・要素

- その他, 和, 積, 単位行列, 転置行列, 行列式などを要復習₂

スカラー、ベクトル、行列の集合

実数を要素とするスカラー・ベクトル・行列の集合

- \mathbb{R} : 実数の集合
- \mathbb{R}^M : 要素が実数の M 次元ベクトルの集合
- $\mathbb{R}^{M \times P}$: 要素が実数の $M \times P$ 行列の集合

実数を要素とするスカラー・ベクトル・行列

- $a \in \mathbb{R}$: 実数 a
- $\mathbf{a} \in \mathbb{R}^M$: 要素が実数の M 次元ベクトル \mathbf{a}
- $A \in \mathbb{R}^{M \times P}$: 要素が実数の $M \times P$ 行列 A

3

1次形式のベクトルによる表現

1次形式(変数の1次の項“のみ”からなる多項式)

- x_1, \dots, x_M : M 個の変数
- a_1, \dots, a_M : M 個の係数

$$f_1(x_1, \dots, x_M) = \sum_{i=1}^M a_i x_i = a_1 x_1 + \dots + a_M x_M$$

例: $f_1(x, y, z) = ax + by + cz$

1次多項式のベクトルによる表現

- $\mathbf{x} = [x_1 \ \dots \ x_M]^T, \mathbf{a} = [a_1 \ \dots \ a_M]^T$

$$f_1(\mathbf{x}) = \mathbf{a}^T \mathbf{x} = \mathbf{x}^T \mathbf{a}$$

4

2次形式の行列による表現

2次形式(変数の2次の項“のみ”からなる多項式)

- x_1, \dots, x_M : M 個の変数

- a_{11}, \dots, a_{MM} : $M \times M$ 個の係数

$$f_2(x_1, \dots, x_M) = \sum_{i=1}^M \sum_{j=1}^M a_{ij} x_i x_j$$
$$= a_{11}x_1^2 + \dots + a_{MM}x_M^2 + \dots + 2a_{12}x_1x_2 + \dots + 2a_{(M-1)M}x_{M-1}x_M$$

例: $f_2(x, y) = ax^2 + bxy + cy^2$

2次形式の行列による表現

- $x = [x_1 \dots x_M]^T, A = \begin{bmatrix} a_{11} & \dots & a_{1M} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{M1} & \dots & a_{MM} \end{bmatrix}$

$$f_2(x) = x^T A x$$

5

対称行列と2次形式

対称行列

- $A = A^T$ を満たす正方行列

例: $A = \begin{bmatrix} x & a & b \\ a & y & c \\ b & c & z \end{bmatrix}$

特に, $A \in \mathbb{R}^{M \times M}$ のとき実対象行列とよぶ

2次形式($x^T A x$)中の行列 A と対称行列

- 行列 A を実対称行列とすると任意の2次形式 f は $f = x^T A x$ と表現できる。

- また, その実対称行列 A はただ1つに定まる

6

ベクトルの微分

ベクトルをスカラーで微分

- $v = [f(x) \ g(x) \ \dots \ h(x)]^T$ のとき $\frac{dv}{dx} = \left[\frac{df(x)}{dx} \ \frac{dg(x)}{dx} \ \dots \ \frac{dh(x)}{dx} \right]^T$

- 問題: $v = [x \ x^2 \ x^3]^T$ のとき, $\frac{dv}{dx}$ を求めなさい

多変数関数をベクトルで微分

- $x = [x_1 \ x_2 \ \dots \ x_M]^T$ のとき $\frac{df(x)}{dx} = \left[\frac{\partial f(x)}{\partial x_1} \ \frac{\partial f(x)}{\partial x_2} \ \dots \ \frac{\partial f(x)}{\partial x_M} \right]^T$

- 問題: $f(x) = x_1^2 + x_1x_2 + x_2x_3^2$ のとき $\frac{df(x)}{dx}$ を求めなさい

公式: $f(x) = a^T x$ のとき $\frac{df(x)}{dx} = a$

公式: $f(x) = x^T A x$ のとき $\frac{df(x)}{dx} = 2Ax$

7

逆行列

正方行列 A と単位行列 I に対して、
 $AA^{-1} = A^{-1}A = I$ となる行列 A^{-1} を逆行列とよぶ

- 例: $A = \begin{bmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 4 \end{bmatrix}, A^{-1} = -\frac{1}{2} \begin{bmatrix} 4 & -3 \\ -2 & 1 \end{bmatrix}$

問題:

- 上の例で $AA^{-1} = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$ となることを確かめよ

- 上の例で $A^{-1}A = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$ となることを確かめよ

8

逆行列の性質

正方行列 A と B に逆行列が存在するとき、以下の性質を満たす

性質1: 逆行列が存在する場合は一意に定まる check!

性質2: $(A^{-1})^{-1} = A$ check!

性質3: $(AB)^{-1} = B^{-1}A^{-1}$ check!

9

掃き出し法

掃き出し法の手順

- 行基本変形を繰り返し、拡大係数行列の左部分を単位行列 I に変形

行基本変形

1. 行と行を入れ替える
2. 1つの行を k 倍する
3. 1つの行の k 倍を他の行に加える

10

掃き出し法の仕組み #1

行基本変形1 (行と行を入れ替える) を行う行列

- 単位行列 I の入れ替えたい行同士を交換した行列
- 例: 行列 A の2行目と3行目を入れ替えたい: $C = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \end{bmatrix} \rightarrow CA$

行基本変形2 (行を k 倍する) を行う行列

- 単位行列 I の k 倍したい行を k 倍した行列
- 例: 行列 A の2行目を k 倍したい: $C = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & k & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \rightarrow CA$

行基本変形3 (k 倍した行を他の行に加える) を行う行列

- 単位行列 I の k 倍したい行と加えたい列に k を代入した行列
- 例: 行列 A の3行目を k 倍し1行目に加えたい: $C = \begin{bmatrix} 1 & 0 & k \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \rightarrow CA$

11

掃き出し法と逆行列

問題: 次の行列の逆行列を掃き出し法で求めなさい

$$- A = \begin{bmatrix} 1 & 3 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}, B = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{bmatrix}, C = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 4 \end{bmatrix}$$

掃き出し法で逆行列が求まる仕組み

- C_j : j 回目に行う行基本変形を表す行列

$$\underbrace{C_j, \dots, C_2 C_1}_{A^{-1}} A = I$$
$$C_j, \dots, C_2 C_1 I = A^{-1}$$

12

行列式と逆行列

2×2 の行列の逆行列の公式

$$A = \begin{bmatrix} a & c \\ b & d \end{bmatrix} \Rightarrow A^{-1} = \frac{1}{|A|} \begin{bmatrix} d & -c \\ -b & a \end{bmatrix}$$

$N \times N$ の行列の逆行列の公式

$$A^{-1} = \frac{1}{|A|} \begin{bmatrix} A_{-11} & A_{-12} & \cdots & A_{-1N} \\ A_{-21} & A_{-22} & \cdots & A_{-2N} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ A_{-N1} & A_{-N2} & \cdots & A_{-N1} \end{bmatrix}^T$$

- 各 A_{-ij} は余因子だが、ここでは復習しない

13

行列のランク(階数)

行列 A のランク(階数): $\text{rank}(A)$

- $M \times P$ の行列 A に行基本変形を行い階段行列にしたとき、一つ以上の成分がゼロではない行の数
ランクには様々な深い意味がある

問題: 次の行列のランクを求めなさい

$$- A = \begin{bmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 4 \end{bmatrix}, B = \begin{bmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 6 \end{bmatrix}, C = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 0 \\ 1 & -1 & 2 \\ -1 & 0 & -1 \end{bmatrix}$$

14

連立一次方程式と行列のランク

M 個の未知数をもつ連立一次方程式 $Ax = b$ が非自明なただ一つの解をもつための必要十分条件

$$\text{rank}(A) = \text{rank}([A|b]) = M$$

- 例: $\text{rank}(A) < \text{rank}([A|b])$ のとき

$[A|b]$ の行基本変形後の階段行列 ($\text{rank}(A) = 2, \text{rank}([A|b]) = 3$)

$$\left[\begin{array}{ccc|c} 1 & 1 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 2 \\ 0 & 0 & 0 & 3 \end{array} \right], \text{ 3行目で } 0 = 3 \text{ と矛盾} \Rightarrow \text{解無し}$$

- 例: $\text{rank}(A) = \text{rank}([A|b]) < M$ (M : 変数の数) のとき

$[A|b]$ の行基本変形後の階段行列 ($\text{rank}(A) = 1, \text{rank}([A|b]) = 1, M = 3$)

$$\left[\begin{array}{ccc|c} 1 & 1 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{array} \right], x + y + z = 1 \Rightarrow \text{不定解(無限の解をもつ)}$$

15

逆行列とランク

正方行列 $A \in \mathbb{R}^{M \times M}$ に逆行列が存在するための必要十分条件

$$\text{rank}(A) = M$$

問題: 次の行列に逆行列が存在するか答えなさい

$$- A = \begin{bmatrix} 1 & 3 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}, B = \begin{bmatrix} 1 & 3 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}, C = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}, D = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

16